

「悪」と統治の日本近代

—— 道德・宗教・監獄教誨

思想史・近代

しげた しんじ
繁田真爾著

▼ A5判・上製カバー・378頁・本体五、〇〇〇円＋税

2019年8月刊行



近代日本において一様に捉えきれない多様な「悪」の姿と、それがどのような扱われたのかを、イデオロギーと実践の双方の面から描く。

【目次】

序章 近代日本の統治と仏教

第Ⅰ部 創られた規範——国民道德の形成

第一章 近代日本における国民道德論の形成過程

——明治期の井上哲次郎にみる

第二章 一九〇〇年前後日本における国民道德論のイデオロギー構造

——井上哲次郎と二つの「教育と宗教」論争にみる

第Ⅱ部 「悪」と宗教——清沢満之を中心に

第二章 第Ⅱ部の概要と課題

第三章 日清戦争前後の真宗大谷派教団と「革新運動」——清沢満之「精神主義」の起原

第四章 清沢満之「精神主義」再考

——明治後半期の社会と「悪人の宗教」

第Ⅲ部 刑罰と宗教——監獄教誨の歴史

第五章 第Ⅲ部の概要と課題

第五章 「監獄教誨」の誕生

——明治一〇・二〇年代における刑罰と宗教

第六章 異端的教誨師と囚人たち

——明治三〇年代における「清沢的契機」

結 章 「悪」と統治の日本近代

参考文献一覧

あとがき

索引

◆著者略歴

一九八〇年山口県生まれ。二〇〇二年早稲田大学第一文学部史学科卒業、二〇一四年早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。明星学園中学・高等学校教諭を経て、現在、日本学術振興会特別研究員（東北大学）。博士（文学）。主な論文に、「吉田久一——近代仏教史研究の開拓と方法——」（オリオン・クラウタウ編『戦後歴史学と日本仏教』法蔵館、二〇一六年）、「方法としての〈清沢満之〉の可能性——「悪」と近代への問い——」（『現代と親鸞』第三五号、二〇一七年）など。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様 冊
法蔵館 本体五、〇〇〇円＋税 繁田真爾著 「悪」と統治の日本近代 —— 道德・宗教・監獄教誨	
ISBN: 978-4-8318-5558-9 C3021	住所
お名前	お電話

ご注文はFAX: 075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp